

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
熊本デザイン専門学校	平成5年12月24日	校長 内藤謙	〒 862-0973 (住所) 熊本県熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人未来創造学園	平成22年3月2日	理事長 吉山昌利	〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656					
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	ファッションデザイン科クリエイティブ専攻コース	平成14(2002)年度	-	平成27(2015)年度			
学科の目的	ファッションにとどまらず、ライフスタイルまでを提案できる幅広い視野を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	色彩検定、ファッションビジネス能力検定、パターンメイキング技術検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,920 単位時間	363 単位時間	1,557 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率				
50人	14人	0人	0%	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		0	人				
	■就職希望者数(D)		0	人				
	■就職者数(E)		0	人				
	■地元就職者数(F)		0	人				
	■就職率(E/D)		0	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 衣装制作企業								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			0				
	評価団体: ○○○○		受審年月: ○年○月	評価結果を掲載したホームページURL ○○○○				
当該学科のホームページURL	https://kumamoto-design.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,920 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		12 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		1,920 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		12 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位						
うち必修単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		5人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
古庄 貴敏	株式会社古庄本店代表取締役社長・くまもとファッション協会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松本 雪	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務主任ファッションデザイン分野	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
平野 恵子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務ファッションデザイン分野	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月1日 10:00～11:00

第2回 令和6年3月15日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第一回目の会議では、令和5年度の学科カリキュラム、および企業と連携して行ったアパレル実習の実施報告に基づき、授業や実習の効果を上げるための意見交換を行った。さらに、入学者数が増えたことに関するアンケート結果をもとに考察し、今後の広報面などに対する意見交換を行い、その後の広報活動に活かした。

第二回目の会議では令和5年度の実施内容を報告した。特に産学連携については、今後の学生指導や広報面にも生かしていけるのではと評価が高かった。学校全体で取り組んだ講演会等についてもご意見をいただき、今後の学校としての方向性を考える貴重な意見交換ができた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

アパレル業界での即戦力を目指すために、実店舗にて接客、販売、商品管理等に必要な知識・技術を習得させる。必要知識を得るために、現場担当者(専門的知識・技術を有する方)による演習や、長年熊本のファッションの移り変わりを見てきた上での、熊本ファッションの歴史や、地域生活者の特性や動向に関する考え方を身に付ける。職種を問わず、商品の最終段階にあたる店舗販売を通して、学生自身のスキルアップと目的意識の明確化を目的に授業を展開することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後は企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
アパレル演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	業界で即応できる生産技術を指導する。総裏テーラードジャケット又はコートの構成を理解し、演習を通して素材特性を活かした縫製技術を身に付ける	有限会社 有田

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FaW TOKYO (ファッション ワールド 東京)セミナー	連携企業等:	RX Japan 株式会社
期間:	令和5年10月11日(水)～令和5年10月12日(木)	対象:	アパレル業界
内容	東京ビッグサイトで開催されたFaw TOKYO内で次の4つのセミナーを受講した。「サステナビリティ視点での消費社会の行方」「パルの共感型EC・SNS 多様な個人が輝くデジタル戦略」「海外コレクションに見る2024年春夏トレンド、サステナビリティとの関係」「私たちのファッションの未来図 ～企業とZ世代が考える繊維の資源循環～」		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象:	専門学校教職員等
内容	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例		
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	志望意欲を高める育成型広報		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ジェネレーティブAIとファッションの未来 #4	連携企業等:	OpenFashion
期間:	2024年9月20日(金) 14:30~16:30予定	対象:	一般
内容:	「ファッション業界における生成AIの役割」をテーマに、デザイン、教育、業界といった3つのパートに分けて開催		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	最新生成AIトレンドについて	連携企業等:	未来創造学園
期間:	令和6年7月31日((水))14時15分~16時	対象:	企業・学校関係者等
内容:	AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論		

研修名:	発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮	連携企業等:	熊本市発達障がい者支援センターみなわ
期間:	令和6年8月4日(木)10時~12時	対象:	学校関係者等
内容:	合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方		

研修名:	大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和6年9月24日(火)16時~17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのこと大きな問題となることはなく機能している。

教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
中山 洋子	在校生保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 2024年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 2024年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 ファッションデザイン科クリエイティブ専攻コース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			素材学	ファッションの材料となる素材の基本的性質を知ると共に、多くの生地に触れてその感覚や使い方を身につける。その特性とそれを活かす方法を理解することで実践的に役立て、また、取り扱いを理解することで、より専門的知識を持ったデザイナーやアドバイザーを目指す。市場で使われている生地の名前や、そのアイテムとの関連なども学修する。	1年	30		○			○	○		
2	○			服飾史	西洋服飾の歴史を学ぶ。歴史上でどのような文化のもと、どのように美意識が変化していくのか、またそれにより人々のファッションに対する考えやそのデザインがどのように影響を受けていくのかを学修する。過去の時代背景とファッションの関連を学ぶことにより、今後の流行を予測する力を身につける。	1年	30		○			○	○		
3	○			パターンメイキング	採寸から基本アイテムの製図まで、パターンメイキングの基礎を指導する。体と服とゆとりとの関係を理解し、演習を通して平面から立体を作り出す構成感覚を身につけ、工業用パターンの作成までを行う。	1年	##		○			○		○	
4	○			ソーイング	アパレル生産の基礎を指導する。職業用ミシン、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン等の操作方法を身に付け、スカート、パンツ、シャツ、ジャケット等の基本的なアイテムの構成を理解し、演習を通して既製服の縫製技術を身に付ける。	1年	##		○			○		○	
5	○			ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1年	75		○			○		○	
6	○			総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。	1年前期	15		○			○		○	

7	○			デザイン画 I	人体のバランスの取り方から、イメージしたデザインを表現するための技術までを基礎から指導する。	1年	75			○		○			○
8	○			ファッションビジネス論 I	ファッション産業の仕組みや特性について解説する。 産業構造、ビジネスの特性と変遷、社会と消費者の変化等、業界全体の現状を把握し、業態別ビジネスの特性、MD基礎知識とブランド展開についての基礎的な知識を身に付ける。	1年	75			○		○			○
9	○			スタイリングコーディネート	ファッションアイテムに関する基礎知識とスタイリングコーディネートの方法を指導、また、スタイリングコーディネートに必要なヘアアレンジ、メイク方法、ポージングやウォーキングの指導をする。アイテム名、ディテール、シルエット、ラインなど、商品に関する基礎知識を身につけ、スタイリングコーディネートでの応用力を身につける。	1年	48			○		○		△	○
10	○			ファッションマーケティング	プランニングの基礎となるターゲット企画や情報分析等を指導する。クラスター分析を行いイメージマップの作成とライフスタイルをはじめとする周辺情報を収集・分析する力を身につける。市場調査の方法を身に付け、トレンド情報やブランド情報を収集・分析する能力を身に付ける。	1年	60			○		○			○
11	○			ファッションデザイン論	ファッションデザインを学ぶうえで必要となる基本的な知識を学修する。ファッションデザインとは何か、また、その考えをどのように表現していくのか、そこに必要な知識・技術を身につける。デザインプロセスや造形の基本テクニック、などを学び、他の科目で実践的に身につけられる入口になるよう連携を図る。	1年前期	15			○		○			○
12	○			販売概論	ファッション販売の概要とショップスタッフの対応力、快適な売場運営について指導する。 今、実店舗に求められるショップスタッフの役割を理解し、お客様の購買行動と心理プロセスに沿った対応力を修得する。	1年	33			○		○			○
13	○			修了制作	オリジナルデザインの提案を指導する。1年間の集大成としてマーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、企画書作成、プレゼンテーションまでを一貫して行う。	1年後期	##			○		○			○

14	○		ビジネス マナー	百貨店において、接客サービスに従事し、 接客指導の実績のある教員が、社会人として の基礎力を指導する。第一印象から身 だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」 「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公 的な場面での好感もてるマナーやコミュ ニケーション力を修得する。	1 年	30		○			○		○	
15	○		社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を 経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定 の基本となる考え方と就職活動の具体的方 法を学ぶ。	1 年 後 期	15		○			○		○	
16	○		クリエイティ ブパターン I	パターンメイキング技術の応用として、2年 次で制作する総裏仕立てのジャケット又は コートで作図を指導する。演習を通して素 材やデザインに合わせた作図の技術を身に 付ける	1 年 後 期	24			○		○			○
17	○		社会研究 II	将来の職業への関心を更に深め、働く事 の意義や構造について学ぶと同時に、社会 におけるコミュニケーションのあり方を修得 し、意欲的な人生設計への実現に向けた選 択行動が取れるようになる事を目的とす る。	2 年 前 期	15		○			○		○	
18	○		ファッション マーケティング II	アパレル業界におけるマーケティング、及 びプランニングの流れを解説し、実践す る。 マーケットリサーチ、ロジカルシンキング を通し、市場の流れ、業界動向、流行を読 み取る力を修得する。	2 年 前 期	45			○		○		○	
19	○		グラフィック デザイン	IllustratorとPhotoshopのアプリケーシ ョンソフトを使ってポスター、リーフレッ ト、カタログ制作やWebサイト制作など広報 ツール制作について指導する。	2 年	90			○		○		○	
20	○		品質管理	アパレルに求められる品質と消費性能につ いて理解し、品質基準、品質管理、品質評 価、洗濯などの取り扱い方法や品質表示に ついて学ぶ。実践的なしみ抜きなども取り 入れ、現場で役立つ品質にかかわる知識を 身につける。また、お客様に伝えるべき品 質と取り扱いを理解し、その伝え方やク レーム対策についても学ぶ。	2 年 前 期	15		○			○		○	

28	○		ブランドプロデュース	商品企画の基本的な流れを学び、既存のブランド研究をもとに、市場やターゲットにマッチした商品提案力を身につける。ファッションマーケティングの授業と連動させ、市場調査から導いたコンセプトに合わせた提案ができる力を修得する。	2年	75			○	○	○				
29	○		ドレーピング	身体の立体的構造を理解し、ドレーピングの基本的な知識と技術を習得することで、よりデザイン画に近い立体を作り出す技術を身につける。パターンメイキングでの平面製図と連動させながら、よりパターンの仕組みと構造を理解するとともに、ドレーピングだからこそできる立体表現力を身につける。	2年	75			○	○	○				
30	○		クリエイティブパターンⅡ	パターンの応用としてアイテム、デザイン、素材に応じたファーストパターンから工業用パターン作成法を指導する。パターンメイキング検定2級の内容を取り入れ理解を深めていくと共に、リアルクローズに必要なパターン技術を修得していく。	2年	75			○	○	○				
31	○		クリエイティブソーイング	業界で即応できる生産技術を指導する。総裏テーラードジャケット又はコートの構成を理解し、演習を通して素材特性を活かした縫製技術を身に付ける	2年	90			○	○	○				
合計					31	科目	1920 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・出席率が80%以上であること		1学年の学期区分	2期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価によ		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
熊本デザイン専門学校	平成5年12月24日	校長 内藤謙	〒 862-0973 (住所) 熊本県熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人未来創造学園	平成22年3月2日	理事長 吉山昌利	〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656					
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	ファッションデザイン科ファッションビジネス専攻コース	平成14(2002)年度	-	平成27(2015)年度			
学科の目的	ファッションにとどまらず、ライフスタイルまでを提案できる幅広い視野を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	色彩検定、ファッションビジネス能力検定、パターンメイキング技術検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	1,920 単位数	363 単位数	1,557 単位数	0 単位数	0 単位数	0 単位数
			0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率				
50人	12人	0人	0%	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		2	人				
	■就職希望者数(D)		2	人				
	■就職者数(E)		2	人				
	■地元就職者数(F)		2	人				
	■就職率(E/D)		100	%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100	%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%				
	■進学者数		0	人				
	■その他							
	(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 衣装制作企業								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			0				
	評価団体: ○○○○		受審年月: ○年○月	評価結果を掲載したホームページURL ○○○○				
当該学科のホームページURL	https://kumamoto-design.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,920 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		12 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		1,920 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		12 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位						
うち必修単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		5人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
古庄 貴敏	株式会社古庄本店代表取締役社長・くまもとファッション協会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
松本 雪	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務主任ファッションデザイン分野	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
平野 恵子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務ファッションデザイン分野	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月1日 10:00～11:00

第2回 令和6年3月15日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第一回目の会議では、令和5年度の学科カリキュラム、および企業と連携して行ったアパレル実習の実施報告に基づき、授業や実習の効果を上げるための意見交換を行った。さらに、入学者数が増えたことに関するアンケート結果をもとに考察し、今後の広報面などに対する意見交換を行い、その後の広報活動に活かした。

第二回目の会議では令和5年度の実施内容を報告した。特に産学連携については、今後の学生指導や広報面にも生かしていけるのではと評価が高かった。学校全体で取り組んだ講演会等についてもご意見をいただき、今後の学校としての方向性を考える貴重な意見交換ができた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

アパレル業界での即戦力を旨とするために、実店舗にて接客、販売、商品管理等に必要な知識・技術を習得させる。必要知識を得るために、現場担当者(専門的知識・技術を有する方)による演習や、長年熊本のファッションの移り変わりを見てきた上での、熊本ファッションの歴史や、地域生活者の特性や動向に関する考え方を身に付ける。職種を問わず、商品の最終段階にあたる店舗販売を通して、学生自身のスキルアップと目的意識の明確化を目的に授業を展開することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後は企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
アパレル演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	卒業制作でのショップ企画に伴い、ネットショップの開設、および運営方法などを学ぶ。ネットショップにおける必要なコンテンツ制作、接客ポイント、SNSと連動させた運用方法など、実践的に学ぶ	有限会社 有田

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FaW TOKYO (ファッション ワールド 東京) セミナー	連携企業等:	RX Japan 株式会社
期間:	令和5年10月11日(水)～令和5年10月12日(木)	対象:	アパレル業界
内容	東京ビッグサイトで開催されたFaw TOKYO内で次の4つのセミナーを受講した。「サステナビリティ視点での消費社会の行方」「パルの共感型EC・SNS 多様な個人が輝くデジタル戦略」「海外コレクションに見る2024年春夏トレンド、サステナビリティとの関係」「私たちのファッションの未来図 ～企業とZ世代が考える繊維の資源循環～」		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	児童・生徒・学生の創造性・自発性を高めるには	連携企業等:	株式会社Too
期間:	令和5年5月18日(木)17時～	対象:	専門学校教職員等
内容	従来のレポート形式でない、創造性・自発性を高めるための事例		
研修名:	入試環境の変化と高校生の進路研究	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和5年9月15日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	志望意欲を高める育成型広報		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月22日(金)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容	DX推進が教育機関に与える影響の考察、採用や人材育成の実態、必要とされる人物像の調査報告		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ジェネレーティブAIとファッションの未来 #4	連携企業等:	OpenFashion
期間:	2024年9月20日(金) 14:30~16:30予定	対象:	一般
内容:	「ファッション業界における生成AIの役割」をテーマに、デザイン、教育、業界といった3つのパートに分けて開催		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	最新生成AIトレンドについて	連携企業等:	未来創造学園
期間:	令和6年7月31日((水))14時15分~16時	対象:	企業・学校関係者等
内容:	AI導入の成功事例、AI活用による地域戦略、人材育成の新しい方法論		

研修名:	発達障害のある生徒への具体的な支援/合理的配慮	連携企業等:	熊本市発達障がい者支援センターみなわ
期間:	令和6年8月4日(木)10時~12時	対象:	学校関係者等
内容:	合理的配慮の基本、現場で悩みがちなケースの共有、支援や環境調整等についての考え方		

研修名:	大学志向が高まる中での専門学校における学生募集戦略とは	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和6年9月24日(火)16時~17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	高等教育機関[大学・専門学校]の最新動向、高校現場における進路研究の最新動向		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのこと大きな問題となることはなく機能している。

教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	総合企画株式会社 代表取締役会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ダーク代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
中山 洋子	在校生保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 2024年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 2024年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 ファッションデザイン科ファッションビジネス専攻コース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
1	○		素材学	ファッションの材料となる素材の基本的性質を知ると共に、多くの生地に触れてその感覚や使い方を身につける。その特性とそれを活かす方法を理解することで実践的に役立て、また、取り扱いを理解することで、より専門的知識を持ったデザイナーやアドバイザーを目指す。市場で使われている生地の名前や、そのアイテムとの関連なども学修する。	1 年	30		○			○		○		
2	○		服飾史	西洋服飾の歴史を学ぶ。歴史上でどのような文化のもと、どのように美意識が変化していくのか、またそれにより人々のファッションに対する考えやそのデザインがどのように影響を受けていくのかを学修する。過去の時代背景とファッションの関連を学ぶことにより、今後の流行を予測する力を身につける。	1 年	30		○			○		○		
3	○		パターンメイキング	採寸から基本アイテムの製図まで、パターンメイキングの基礎を指導する。体と服とゆとりとの関係を理解し、演習を通して平面から立体を作り出す構成感覚を身につけ、工業用パターンの作成までを行う。	1 年	##			○		○			○	
4	○		ソーイング	アパレル生産の基礎を指導する。職業用ミシン、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン等の操作方法を身に付け、スカート、パンツ、シャツ、ジャケット等の基本的なアイテムの構成を理解し、演習を通して既製服の縫製技術を身に付ける。	1 年	##			○		○		○		
5	○		ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 年	75			○		○		○		
6	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 年 前 期	15			○		○			○	

7	○		デザイン画 I	人体のバランスの取り方から、イメージしたデザインを表現するための技術までを基礎から指導する。	1年	75			○		○			○
8	○		ファッションビジネス論 I	ファッション産業の仕組みや特性について解説する。 産業構造、ビジネスの特性と変遷、社会と消費者の変化等、業界全体の現状を把握し、業態別ビジネスの特性、MD基礎知識とブランド展開についての基礎的な知識を身に付ける。	1年	75			○		○			○
9	○		スタイリングコーディネート	ファッションアイテムに関する基礎知識とスタイリングコーディネートの方法を指導、また、スタイリングコーディネートに必要なヘアアレンジ、メイク方法、ポージングやウォーキングの指導をする。アイテム名、ディテール、シルエット、ラインなど、商品に関する基礎知識を身につけ、スタイリングコーディネートでの応用力を身につける。	1年	48			○		○		△	○
10	○		ファッションマーケティング	プランニングの基礎となるターゲット企画や情報分析等を指導する。クラスター分析を行いイメージマップの作成とライフスタイルをはじめとする周辺情報を収集・分析する力を身につける。市場調査の方法を身に付け、トレンド情報やブランド情報を収集・分析する能力を身に付ける。	1年	60			○		○			○
11	○		ファッションデザイン論	ファッションデザインを学ぶうえで必要となる基本的な知識を学修する。ファッションデザインとは何か、また、その考えをどのように表現していくのか、そこに必要な知識・技術を身につける。デザインプロセスや造形の基本テクニック、などを学び、他の科目で実践的に身につけられる入口になるよう連携を図る。	1年前期	15			○		○			○
12	○		販売概論	ファッション販売の概要とショップスタッフの対応力、快適な売場運営について指導する。 今、実店舗に求められるショップスタッフの役割を理解し、お客様の購買行動と心理プロセスに沿った対応力を修得する。	1年	33			○		○			○
13	○		修了制作	オリジナルデザインの提案を指導する。1年間の集大成としてマーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、企画書作成、プレゼンテーションまでを一貫して行う。	1年後期	##			○		○			○

14	○		ビジネス マナー	百貨店において、接客サービスに従事し、 接客指導の実績のある教員が、社会人として の基礎力を指導する。第一印象から身 だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」 「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公 的な場面での好感もてるマナーやコミュ ニケーション力を修得する。	1 年	30		○			○		○					
15	○		社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経 て自己の社会的確立を目的とし、進路決定 の基本となる考え方と就職活動の具体的方 法を学ぶ。	1 年後期	15		○			○		○					
16	○		クリエイティ ブパターン I	パターンメイキング技術の応用として、2年 次で制作する総裏仕立てのジャケット又は コートで作図を指導する。演習を通して素 材やデザインに合わせた作図の技術を身に 付ける	1 年後期	24			○			○						○
17	○		社会研究 II	将来の職業への関心を更に深め、働く事 の意義や構造について学ぶと同時に、社会 におけるコミュニケーションのあり方を修得 し、意欲的な人生設計への実現に向けた選 択行動が取れるようになる事を目的とす る。	2 年前期	15		○				○						○
18	○		ファッション マーケティング II	アパレル業界におけるマーケティング、及 びプランニングの流れを解説し、実践す る。 マーケットリサーチ、ロジカルシンキング を通し、市場の流れ、業界動向、流行を読 み取る力を修得する。	2 年前期	45			○			○						○
19	○		グラフィック デザイン	IllustratorとPhotoshopのアプリケーショ ンソフトを使ってポスター、リーフレット 、カタログ制作やWebサイト制作など広報 ツール制作について指導する。	2 年	90			○			○						○
20	○		品質管理	アパレルに求められる品質と消費性能につ いて理解し、品質基準、品質管理、品質評 価、洗濯などの取り扱い方法や品質表示に ついて学ぶ。実践的なしみ抜きなども取り 入れ、現場で役立つ品質にかかわる知識を 身につける。また、お客様に伝えるべき品 質と取り扱いを理解し、その伝え方やク レーム対策についても学ぶ。	2 年前期	15		○				○						○

28	○		セールステクニクⅡ	多様化するマーケットや購買チャネルの中で、より高度な専門知識・技術・情報を提供し、商品提案を含め買い手の満足を得られる人材となるべく、実店舗における販売員の役割を解説、実務指導する。ロールプレイングを通し、情報のキャッチ力とコミュニケーションスキルの向上を図る。又、顧客管理の重要性、クレーム対応についての理解を深める。	2年	90			○	○	○							
29	○		ショップマネジメント	ファッション小売店舗における運営、管理について指導する。 小売形態の特性を理解し、どのような目的で、どのように運営されるのか、又、店舗を効率的に・効果的に運営し、目的を達成する為のマネジメントのトータル的な考え方を修得する。	2年	##			○	○	○							
30	○		ショッププロデュース	ショップ出店における一連の業務を指導する。 更に、ファッションEC業界の動向を学びながら、ネットビジネスの基礎知識と運営の仕組みを修得する。	2年	45			○	○	○							
31	○		ネットショッププロデュース	卒業制作でのショップ企画に伴い、ネットショップの開設、および運営方法などを学ぶ。ネットショップにおける必要なコンテンツ制作、接客ポイント、SNSと連動させた運用方法など、実践的に学ぶ	2年	15			○	○	○							
合計					31	科目	1920 単位 (単位時間)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・出席率が80%以上であること		1学年の学期区分	2期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価によ		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。